

各 位

平成 21 年 10 月 28 日
会 社 名 株式会社中山製鋼所
(コード番号 5408)
代 表 取 締 役 社 長 藤井 博務
問 合 せ 先 経営企画部長 西口 秀則
(TEL 06-6555-3023)

鉄鋼事業の抜本的な構造改革による経営基盤強化及び特別損失の計上に関するお知らせ

株式会社中山製鋼所(以下「当社」という)は、本日開催の取締役会において、鉄鋼事業における経営環境変化に耐え得る安定した経営基盤を構築するため、当社鉄鋼事業の構造改革の実行を決議しました。これに伴い特別損失の計上が見込まれますので併せてお知らせ致します。

記

1. 背景と理由

当社では、平成 14 年に高炉、焼結工場の休止による鉄源設備の構造改革を実施、平成 15 年度以降も熱延工場の増強などにより、経営基盤を強化してきた。

しかしながら、昨年のリーマンショックに端を発した世界同時不況により急激に悪化した鉄鋼需要は、本格的な回復には今後 2～3 年はかかり、今暫くは平成 20 年度上期に対し 2～3 割減程度で推移していくものと想定されている。

その前提に立ち、当社の販売量が 10 万トン/月(平成 20 年度上期比 7 割)にとどまった場合でも安定した収益を上げ得る体質を構築することを喫緊の課題として、以下の施策を実施することとした。

2. 構造改革の骨子

構造改革として、転炉工場(冷鉄源溶解法=Nakayama Scrap melting Refining process: 以下「NSR」という)、およびコークス工場を休止すると共にエネルギー供給体制の再構築を実施して大幅なコスト削減を行うことにより、スリムで強靱な収益体質を実現していく。

(1) NSRの休止

平成 14 年の高炉休止以降、NSRにて棒線向け高炉代替鉄源として生産を継続してきたが、

- ・設備プロセス上、特に減産下における間欠操業により、コスト高が解消されないこと
- ・競合する高炉品種においては高炉の安定したコストに対し、NSRはスクラップ価格高騰時に収益の悪化が顕著となること

により休止する。

なお、当社の棒線事業は、代替鉄源を新日鐵殿などから調達の上、従来通りの営業体制の下で事業を継続する。

休止予定 : 平成 22 年 6 月末

(2) コークス工場の休止

高炉休止以降、コークスの販売、および当社の圧延加熱炉燃料用ガス、自家発電用蒸気の必要性などを考慮して操業を継続してきたが、

- ・現有炉は老朽化が進行しており、このまま操業を継続するには、老朽対策と更なる環境対策のための多額の設備投資が避けられないこと
- ・鉄鋼需要の悪化に伴い、コークス需要の回復が当面、望めないこと

により休止する。

(参考) コークス販売取り止めに伴う売上高の減少 : 平成 20 年度のコークス販売実績 201 億円
(単体売上の 10.6%)

休止予定 : 平成 22 年 6 月末

(3) エネルギー供給体制の再構築

高炉休止以降、稼働を継続してきた自家発電設備などのエネルギー関連設備は、NSR、コークス工場の休止を機に休止し、エネルギー供給体制を再構築する。

休止予定 : 平成 22 年 6 月末

(4) 要員配置の効率化

上記のとおり、構造改革および減産体制に見合う要員とするため、200 名規模の人員削減を実施する。なお、具体的なスケジュールなどは決定次第、公表する。

3. 構造改革に伴う特別損失の計上

本構造改革実施<上記 2-(1)~(3)項>に伴い、平成 22 年 3 月期 第 2 四半期の特別損失に事業構造改善引当金繰入額 100 億円を計上する。内訳は以下のとおり。

① 設備・予備品の除却 : 63 億円 ② 設備解体費 : 37 億円

4. 業績見通し

(1) 平成 21 年度の業績見通し (連結)

(億円/年)

	平成 21 年 3 月期	平成 22 年 3 月期		
	実績	平成 21 年 8 月 6 日付見通し①	今回見通し②	差異 ②-①
売上高	2,598	1,610	1,570	△40
営業利益	95	△ 10	△80	△70
経常利益	71	△ 30	△100	△70
特別損益	△ 30	10	△95	△105
当期純利益	23	△ 20	△200	△180
純資産	849	—	651	—
有利子負債	938	—	942	—
フリーキャッシュフロー	△ 32	—	6	—

平成 21 年度の業績見通しにつきましては、本日発表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」と併せてご参照ください。

(2) 構造改革後の業績見通し (連結)

(億円/年)

	平成 19 年下期 年換算値 ① ※	構造改革後 ② (平成 23 年度)	差異 ②-①
売上高	2,297	1,640	△ 657
営業利益	53	90	37
経常利益	34	65	31
当期純利益	16	50	34
純資産	836	718	△ 118
有利子負債	830	824	△ 6
フリーキャッシュフロー	△ 12	95	107

※リーマンショック以前の安定時